

## 令和2年度 とやま 21世紀水ビジョン推進会議 議事要旨

日時：令和2年9月29日(火)

13:30～15:00

場所：富山県民会館 302号室

### ■ 出席者

#### 【委員】

荒井委員、石井委員、大野委員、門脇委員、楠井委員、小泉委員、田瀬委員、張委員、永森委員、南部委員、広田委員、藤井委員、藤本委員、水野委員

#### 【事務局】

竹野生活環境文化部長、武隈生活環境文化部次長、村岡県民生活課長  
ほか関係課担当職員

.....

### ■ 会議次第

- 1 開 会
  - 2 あいさつ
  - 3 会長の選任
  - 4 議 事
    - (1) 「とやま21世紀水ビジョン」について
    - (2) 「とやま21世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について
    - (3) 水源地域保全条例に基づく届出状況について
    - (4) 流域水循環計画の再認定について
    - (5) その他
  - 5 閉 会
- .....

(1) 「とやま21世紀水ビジョン」について [事務局説明]

(2) 「とやま21世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について [事務局説明]

#### 【議長】

進行状況、あるいは達成状況について、ご質問とかご意見はございますか。

#### 【委員】

水道水の満足度という所で、5年前と比べて下がっていますが、下がっている要因について分析ができていれば、その原因等教えていただきたいのと、目標達成に向けて今後どのような取り組みをしていこうとされているのか、もしお考えがあれば聞かせていただきたいと思います。

#### 【事務局】

県政モニターアンケートで、「水道水についてどのように思いますか」という質問に対して、「満足している」と「特に不満はない」という方の合計を合わせたものを満足度とい

うことで、集計しております。

実際この「満足している」というパーセントは増加傾向にございましたが、「特に不満はない」というパーセントが若干減少しており、全体の満足度が低下した理由ではないかと思っております。

今回のモニターアンケートには、具体的に不満とする内容はどうかということの絶対的な回答は出ておりませんが、自由記載ということで、いろいろなご意見を頂く欄がございまして、こちらに記入いただいた内容から推測させていただきますと、「水道料金が高めで不満である」と記載された方が2名いらっしゃいまして、令和元年10月に消費税が10%上がりましたことに伴い、多くの水道事業体では、水道料金が増額となっております。こういったことが、不満という形で記載されたのではないかと推測しております。

また、味につきまして、今回のコロナ禍ということで、ステイホームが増え、ちょうどこのアンケートを出した時期が6月ということですので、暑くなった時期ということで、給水栓から直接水道を飲用される機会が増えており、生ぬるく感じられることもあったのかと思います。これが、味の不満ということで、「やや不満である」という形で計上されてきたのかなと思っております。

やはり安全な水道水を給するためには、消毒というものが重要なものでして、水道につきましては、適切な消毒量で管理されているということをご理解いただければと思っております。

またアンケートの自由記載の欄には、「水道水がそのままおいしく飲めることは貴重な環境であり、水道の水はおいしい」と、「富山の水道水は安全でおいしい」というご意見も頂いていることですので、安心して水道水をご利用いただけるようなPRに努めていきたいと思っております。

水道水の満足度を上げるためには富山の水はおいしく安全に管理されているということ、いろんな機会を捉えて、各市町村等の水道事業体にもPRいただいて、県民の皆様にご理解いただけるように努めてまいりたいと思っております。

## 【委員】

モニターアンケートの結果、普段飲まれている水の2割がペットボトルの水となっていて、富山県内、大学を含めて、いろんな活動をしておりまして、他の都道府県の方がいらっしゃるのですけれども、水質にしてもテイスティングにしても、富山の水は実はナンバーワンなのですね。そういったプロモーションのような活動は、普段どういことをされているのか。

例えば水のソムリエとか、利き水という活動をした時に、水がおいしいですというふうには言っている。

日曜日も県の活動がありまして、学生さん、子供と一緒に利き水をいたしまして、富山の水がナンバーワンでおいしいと言うことを「知りませんでした」と言われた。

「知りませんでした」と言うのは、子供さんはいいのですけれども、親子教室ですので、おじいさんもおばあさんもいらっしゃるのですね。そのおじいさん、おばあさんが知りませんでしたと言うのは、ちょっとあり得ないと思っております。ですので、普段どうやっ

てアピールするかということとは必要かなと思っております。

### 【事務局】

富山県は全国で8名水が選ばれておりまして、全国最多であるということですか、3,000m級の山々から1,000m級の深層水に至るまで、きれいな水が富山の地下を通過して、浄化されて巡る水として使われていることなどを、県のホームページなどでアピールしております。

また、「とやま名水協議会」というのを作っております。富山県内の名水を使用したペットボトル等を販売しておられるのですが、県内外のイベントですとか、学会とかそういう所で、おいしい富山の水として提供しております。

近いところでは新聞等で報道いただいたのですが、大関の朝乃山関に富山の名水協議会からペットボトルを18箱提供し、大きくPRいただきまして、酒よりは富山の水だとか、おいしい富山の水を飲んだことで自分は一生懸命頑張っているみたいなことをアピールいただいたので、こうした形で引き続き名水協議会ですとか、ホームページなど様々な機会を通じて、しっかりアピールしていきたいと思っております。

### 【委員】

富山の水についての施策について、多方面から実施されているということが改めて分かりました。

施策を進める上では、まず県民地域住民や子供達にも知っていただくということは、大事なことかなというふうに思います。

私たち自然保護協会でも、子供さんや県民の方を交えた水質調査とか、自然観察などは継続させていただいているところですが、この「とやまの川の見守り隊」というのは具体的にどういうふうに進めておられるのか、単発的なものなのか継続的なものなのか、それからこのように関連して、他にも地域住民や子供達を交えたような勉強会や観察会などを、ずっと継続されていかれるような施策があるのかということをお聞きしたいと思っております。

### 【事務局】

「とやまの川の見守り隊」については、各地域のほうで川の保全活動をやっている方を中心に、地域で川の保全をしていくということで、小学生などに水質調査、水生調査といったものを通して川の保全活動をやっていくということで、継続的に行っている事業です。

コロナの関係で、今年は出来ていないのですが、その代わりに観察会、「とやま川・海の環境観察会」というのがありますけど、こういったものをやりながら、引き続き小学校低学年からの環境教育をやりたいというふうに思っております。

### 【委員】

用水路の事故のことなのですが、富山県が用水路の事故がとても多いということをおっしゃいましたけれども、私は素人でよく分からないのですが、田んぼが

多いから用水路が多いのかな、というのは何となく素人考えなのですけど、他に原因があるのでしょうか。

#### 【事務局】

基本的に委員のおっしゃる通りに、富山県の水田率が全国1位というところで、農業用水に依存しているところが多いのかなというふうに考えております。

もう一つは富山県特有ということで、散居景観という、住居周りに水路が多いということも1つの原因かなと。

もう一つは扇状地地形で、富山県の農業用水路の勾配が非常にきつく、流速が速いと。落ちたらなかなか助からないということや、冬場でも水を流すということから、富山県の農業用水の事故が多いのかなというふうに考えております。

#### 【議長】

今の関連で、先ほどの「とやまの川の見守り隊」とか、子供への教育の中で、同時に農業用水の危険性というのを考えさせるようなものを取り入れる、特に流速が速いと歩けないとか、すぐ流されるとかそういうようなことを、経験というか、その辺のところを一緒にやれたらいいのではないかなという気がします。

私の所、茨城では水路ではなくて、ため池が問題になっているところがありますけれども、遊ぶ中で、何か観察する中で、危険を察知できるというか、感じ取れるようなものを入れたらよりいいのではないかなという気がいたします。

#### 【事務局】

富山県の農業用水転落死亡事故が多い中で、実はほとんどが65才以上の高齢者になっておりまして、重点的に高齢者を対象としてPRしていこう、推進していこうということを中心として置いておりました。子供というところは今年抜け落ちていたということもあって、大人向けの映像があるのですが、子供向けの安全対策の映像も作ってみようかという話もあるので、先生のご意見も参考にしながら、来年度の予算要求の参考にしていきたいと考えております。

#### 【事務局】

多面的機能支払制度ということで、集落ぐるみで用排水の農地法面の草刈りですとか、水路の補修に取り組んでいるわけなのですけども、その際に地域住民の子供達も交えた生き物調査を行ったりして、小さい頃から施設用水と関わりを持っていただくような取り組みも行っております。

#### 【委員】

富山県で、とやま21世紀水ビジョン推進会議の恩恵に預かっている企業がたくさんございまして、立山に降った雪解け水が富山平野を流れる。工業排水、農業排水、生活排水が水ビジョン推進会議のいろんな施策によって、保護されて、それが海へ流れていく。

非常にきれいな深層水、この水の循環が、世界に誇る1つの施策を実行されている事例ではないかと思っております。

富山県内においても、ペットボトルの便利があるものですから、20%前後の方、大体、日本全国共通しております、ペットボトルの使用量があるわけです。決して水道の水がまずいからではなくて、生活に便利だということで、災害用の保存水とか、いろんな物に使われているわけです。

我々富山県の水をいろんな形で世界にもPR活動をしていきたい、ということで活動しているのですが、水ビジョンは、水を管理している世界でも少ないプロジェクトです。

アジアを見ると分かるのですが、個々の政策がないがために水が全部悪いのですね。おそらく我々のように、水道水が飲める国というのは、アジアの中では数が少なくなってきました。中国、アジア大陸含めて、水道水が飲めない状況でございます。

せっかくこういった環境が出来上がりつつあるわけですから、もうちょっとPRをきちりして世界に誇る、いわゆる水の王国富山というものを何らかの形で世界に発信していきたい。

その方法がいろんなイベント等もあるかと思うのですが、我々は商品を通じて世界に発信していきたいと思うのですが、県におかれましては、非常に費用もかかることなのでしようが、その先鋒を我々がさせていただくとして、何か大きなイベントとかですね、情報発信と何か大きな県をあげてのイベントを国際的に企画していただけるものなのかどうか、もしそういった機会があれば、世界から来ていただいて、富山の水のおいしさをもっと宣伝できるのではないかなと思っております。

そういったことで多少補足になればと思うのですが、おそらく日本全国でもこれだけのいい水が出る県は他にございませんので、トータル的に水を保護しようという、結果としていい水が出る所がいくつかあるのですよ。これは将来を考えた場合に、それがなかなか保障できない。

ただ富山県の場合は、これだけきちっと管理していきますと、おそらく水の質が維持できるのではないかと思っております。

#### 【議長】

今、コロナ禍ですからイベントは難しいですけども、そのうちできることがあればと思います。

#### 【委員】

今話題になっているマイクロプラスチックのことですけども、他の海岸漂着物と違って、非常に分かりにくいと思います。一般的な市民の皆さんの思いとしては、海岸にどれくらいあるのかとか、海中に漂っているのかとか、魚とか貝の中に含まれているのかとか、そういったような比較的単純な疑問ですけども、そういったところがなかなか分からないと思いますけれども、そういったことが目に見える化的な事業というのは、何か考えておられるのでしょうか。

## 【事務局】

マイクロプラスチックにつきましては、まず海岸にどれだけあるのかということは、分からないところがあるのですが、県の環日本海環境協力センターで、県内の海岸の、海岸漂着物の調査をずっとやってきているのですが、その中でマイクロプラスチックに関する調査も開始したところもありまして、そちらでどのような状況かというところを、また今後見ていきたいと思っています。

魚や貝に含まれるものにつきましては、県で調べるといのは難しいところがあるのですが、マイクロプラスチック対策を考えていく時に、現状を知らないと皆さんに取り組んでいただくのは難しいと考えておりますので、そういった所も含めて、分かりやすく啓発できるようにしてまいりたいと考えております。

## 【委員】

環日本海環境協力センターで、日本海沿岸の漂着物の調査に合わせて、埋没物調査をやっておりまして、私も10年間ほど関わったことがあるのですが、砂の中にある微小なプラスチックを調べるという手法がありまして、富山県の海岸の中でも、やはり埋没物というか、微小なプラスチックが砂の中にありまして、レジンペレットと呼ばれるような工業用の原料になりますとか、あるいは小さなプラスチックのものとか。

しかも富山の傾向としては、残念ながら湾の中央部、松太枝浜とか八重津浜とか、中央部ほど多いということで、県内からもマイクロプラスチック原料が増えているという話がある。

先ほど話がありました環境科学センターのほうで、河川からマイクロプラスチックがどれだけ出ているかという調査を、確か今年から開始したというふうに聞いておりますので、その成果はこれから出てくるのかなと思います。

それから、富山湾については、環境省が平成28年度だったかと思いますが、プランクトンネットを引っ張って、富山湾にどれだけマイクロプラスチックあるのかというのを調べた調査があるのですが、確か1立方メートル当たりだと1個未満ということで、東京湾とかに比べれば少ないということで、それほどまだ進んでいないということとか、また魚介類等からも検出された例がないというふうに言っておりました。これからの調査、研究を待つところかなというふうに思っております。

## 【委員】

水質汚濁の防止の中で、窒素・リンの排出抑制を促進するという目標を掲げています。

海域の主要測定地点における水質年度別推移の窒素とリンなのですが、これは年の平均値だと思います。例えばリンの場合ですが、足りないということに近いです。これは年平均なのですが、夏場ですと、もっとこういう状況が激しいかなと思います。ちょっと難しい質問になってしまいました。

なぜこのことを申し上げるかという、瀬戸内海が最近きれいすぎるからです。要するに栄養塩、昔の富栄養化で掲げた目標は今逆になり、陸からの栄養分が足りていないという状況になっているのが瀬戸内海。

実は富山湾もこれに近い状況になっているのは、私たちの研究データで有ります。年平均だけではなくて、例えば夏場は本当に足りているかというのを状況として教えていただきたい。多分即答はできないと思いますから、後ほど教えていただきたいと思います。

この30年間田んぼが減って、地下水の含有量も減っていて、そしてトイレの整備によって窒素が減って、こういった状況を考慮して、20年30年前の規定ではなくて、現在の状況に合ったものにしたほうが良いという話です。

**【議長】**

特に富山はほとんど水田で、畑が少ないからですね。少し考えていただきたいです。

**(3) 水源地域保全条例に基づく届出状況について [事務局説明]**

**(4) 流域水循環計画の再認定について [事務局説明]**

**【議長】**

水源地域保全条例については、富山県はあまり問題がなさそうですね。北海道は相変わらず、購入されたりとか、別荘地とか、水源林が買われたりしているみたいですが。

**【事務局】**

富山県においては、そのような、外国資本に買われたということは、今のところございません。

**【委員】**

流域治水ということで、富山河川国道事務所と黒部川河川事務所のほうで、県内の一級水系、5水系で、流域治水の計画をつくるべく、今月協議会を立ち上げまして、今年度中を目途に流域治水の計画を作るということで、現在検討を始めているところであります。

県、それから市町村、民間も含めて流域全体で激甚化する洪水であり、あるいは内水被害も含めて治水をやっていこうということでありますので、関係の方々には引き続きご協力をお願いしたいと思います。

**【議長】**

他にございますか。よろしいですか。いろいろご意見はたくさんいただきまして、活発な議論ができたかと思えます。

以上